

ごあいさつ



東京外国語大学は、永年の懸案であり、また悲願であった新キャンパスへの移転統合を実現しつつあり、本日ここに新キャンパス・オープニング・セレモニーを挙げる運びとなりました。本学を代表して、これまでにお世話になった皆さまに、心から御礼申し上げます。

本学は、その前身である東京外国語学校が明治6（1873）年に開設されて以来、すでに127年の歳月を刻んで幾多の人材を育てつつ今日に及んでおりますが、この間の本学は、校地・校舎を転々としたばかりか、相次ぐ火災、震災、そして戦災によって、まさにキャンパス受難の歴史を巡ってまいりました。昭和15（1940）年以降の西ヶ原キャンパスには、新制大学としての半世紀の歴史も残されたのですが、近年はキャンパスの狭隘化が著しく、大学としての知的環境にも欠けるものでした。そこで本学では今から15年前の昭和60（1985）年11月に旧米軍キャンプ関東村のこの跡地への移転統合の希望を表明し、関係諸機関との折衝を重ねてまいりました。

学内的には昭和63（1988）年10月に「移転統合の基本構想」をとりまとめ、本学の早期移転に取り組んだのですが、諸般の事情から移転統合の最終決定を見ないまま年月を費やした後、平成8（1996）年8月に文部省の会議で「対話と交流をベースとして世界に開かれたキャンパス」をコンセプトとする新キャンパスの基本設計が承認されたのであります。翌平成9（1997）年9月には、当地において新キャンパス起工式を行い、以降工事が順調に進んで、研究講義棟、附属図書館、学生会館および保健管理センターという教育上の主要機構が予定より早く一括して竣工することとなり、いよいよこの10月から新しいキャンパス・ライフが始まります。私自身、「恵まれた自然環境を大切に、21世紀の日本を代表する、世界に開かれた大学キャンパスを実現したい」としばしば述べてまいりましたが、学内外の皆様のご尽力、とくに文部省の格別のご配慮によって、その夢はここに達成されつつあります。

しかしながら、大学にとって最も重要な課題は、教育・研究の充実であります。国立大学として、国民の負担で実現させていただいた本学新キャンパスが国民の付託に応えていくことになるためにも、本学はさらなる改革を進め、21世紀の世界に向けて、大いなる知的貢献を成し得る個性豊かな大学に飛翔しなければなりません。そのために本学教職員一同最大限の努力をすべきことを誓いつつ、皆様への感謝に代えさせていただきます。

東京外国語大学長

中 嶋 尚 博  
(国際関係論)



移転整備工事着手前敷地状況

● 移転統合の経過

- 1985 (S60) 11.6. 移転希望表明
- 1986 (S61) 2.10. 文部省の会議で移転了承される。
- 1988 (S63) 7.19. 首都機能移転対象機関として閣議決定
- 1989 (H元) 2.24. 移転先が府中市に決定
- 1994 (H 6) 6.21. 新キャンパスの位置、面積等が大蔵大臣に申請される。
- 1995 (H 7) 6.15. 移転時期が平成11～13年度に決定される。
- 1996 (H 8) 8.18. 文部省の会議で新キャンパス建設を平成9年度着工が決定された。
- 8.21. 文部省の会議で新キャンパス基本設計が承認された。
- 11.6. 研究講義棟基本設計承認。
- 1997 (H 9) 9.2. 研究講義棟建設工事着工
- 9.26. 起工式を挙げる
- 1999 (H11) 3.26. 附属図書館着工
- 6. 8. 学生会館着工
- 11.2. 保健管理センター着工
- 2000 (H12) 4.18. 屋内運動場・課外活動施設着工
- 2000 (H12) 9.2. A・A研究棟着工

● キャンパスの遍歴

- 1873 (M6) 11. 一ツ橋通り町1番地に開設（東京外国語学校）
- 1899 (M32) 4. 神田錦町（同）
- 1921 (T10) 4. 麹町区元衛町（同）
- 1923 (T12) 11. 牛込区市ヶ谷（同）
- 1924 (T13) 3. 麹町竹平町（同）
- 1944 (S19) 5. 滝野川区西ヶ原町（東京外事専門学校）
- 1945 (S20) 5. 上野公園、東京美術学校・図書館講習所・美術研究所（同）
- 1946 (S21) 9. 板橋区上石神井（同）
- 1949 (S24) 5. 北区西ヶ原町（東京外国語大学）
- 1971 (S46) 3. 府中市住吉町（附属日本語学校）

2000 (H12) 9. 府中市朝日町

## □ キャンパス整備の基本方針

### 基本理念

# 「対話と交流をベースとして 世界に開かれたキャンパス」

基本理念を踏襲し、その具現化に向けて、次の考え方を基本方針とし、空間的に展開する。

1. 教育研究に適したインテリジェント空間の創造
2. 知的創造活動を触発できる場の創出
3. オープンキャンパスの創出
4. ゆとりと潤いのあるキャンパス

- |            |                   |          |
|------------|-------------------|----------|
| ① 講堂       | ⑥ アジア・アフリカ言語文化研究所 | ⑩ 課外活動施設 |
| ② 図書館      | ⑦ 学生会館            | ⑪ プール    |
| ③ 事務局庁舎    | ⑧ 留学生日本語教育センター    |          |
| ④ 保健管理センター | ⑨ 屋内運動場           |          |
| ⑤ 研究講義棟    |                   |          |

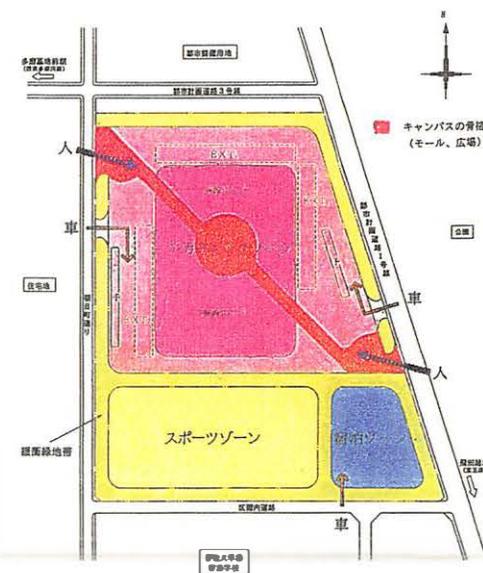


- |             |             |
|-------------|-------------|
| ⑫ テニスコート    | ⑯ モール       |
| ⑬ 屋外運動場     | ⑰ センターコート   |
| ⑭ 宿泊関係施設    | ⑱ 西アライバルコート |
| ⑮ 東アライバルコート | ⑲ 朝日町通り     |
|             | ⑳ 1号線       |

大学改革の実践の中で、21世紀に相応しい理想的なキャンパスづくりを目指し、武蔵野の自然環境を継承しつつ以前よりある樹木を出来るだけ生かした緑豊かなキャンパスと、基本理念である「対話と交流」の場を随所に設け開放的で潤いのある空間づくりに考慮した計画を行い、自己完結的でなく、地域環境と対話可能な社会に開かれたキャンパスを目指した。

センターガーデンを囲む回廊をアカデミックゾーンの中心に配置し、各建物はこの回廊に接して建てられている。南北軸の中心位置に図書館エントランスを、研究講義棟とAA研、事務局棟と学生会館をそれぞれ対角線で結ぶ位置に配置し、それぞれ高層化を図り敷地の有効利用と教育研究施設の効率化を図っている。

東西に設けられている「モール」は、大学全体の軸となる象徴的な街路<キャンパスプロムナード>と位置づけており、主要歩行者動線に相応しく、心に残る原風景となるような魅力的なデザインとした。



敷地利用計画概念図